

2026年の神美クイズは「知っとこ！神美」にヒントがあります。今後も使用するので保存しておいてね！

振興部の

知っとこ！神美 2026年9月号

知っておいてほしい神美を紹介します。

たちばなの郷
神美裏路地探検

立石

過去と現在と未来を感じながら巡る 神美鉱山と中嶋神社と工業団地がある里 立石

1. 中嶋神社

10月18日午後、三宅の中嶋神社より神輿が渡御し、翌日早朝帰還する習わしがあったが、戦争により中断し現在も行われていない。現在の建物は、昭和時代(?)に本殿を改修、最終平成4年籠もり堂を立石地区氏子により新築され現在に至っている。

“立石の民を見守る田道間守” (神美村誌)



中嶋神社(拝殿)



中嶋神社(本殿)

2. 立石城跡

立石城(豊岡市立石字蛇山)

立石城は穴見川左岸、立石集落の北側、標高約70mの丘陵に所在する。集落との比高は約64mを測る。

城域は東西約140m・南北約150mを測る。城主や城史に関する伝承は不明である。(※豊岡市の城郭集成Iより)

3. 神美鉱山跡

●鉱山名:立石鉱山(兵庫県試登第7680号)

●鉱種名:金・銀・けい石・長石

●沿革:昭和8年 鉱業権登録(その後3回移行、昭和25年に消滅)
昭和10年 精錬所完成(60t/日)
昭和18年 休山

昭和46年4月 当時稼働した大部分の地域を含んで、試掘権の設定がされているが、操業されずに昭和48年4月3日試掘権は満期消滅している。

区域面積24,076ha

●当時の操業規模:昭和11年3月 労働者数253名(坑内146、坑外97名)

●出鉱量:1,774t/月

昭和13年2月 労働者数353名(坑内244、坑外109名)

●出鉱量:2,000t/月

●その他:坑口は立石地区に2つ、長谷地区に3つあり、いずれも立ち入り可能な状況であったが、坑道は坑枠も無く落盤の恐れがあることなどから、昭和48年に豊岡市によって入口を塞がれた。(豊岡市昭和51年5月作成「立石地域の用地概況」より)



神美鉱山



4. 日扇寺

明治初年に日蓮宗の普及のため、仏立講を各地に造った動きに応じ、神美地方にも明治6年に但馬仏立講易行組が開始され、明治17年3月に立石に説教所をこしらえた。

檀徒も200余戸に達し、一寺建立の議がおこり、大正4年寂光山極楽寺を立石に移転。寺号を日扇をしたって日扇寺と改称し、許可を得たのを機に大正6年本門法華宗妙蓮寺末日扇寺が成立した。昭和21年に日扇寺檀徒中、豊岡市在住のものが相計って、本清寺を建立したので、日扇寺直接の檀徒が減少し、現在に至る。寺の建坪訳148.5㎡。昭和14年1月22日、現在の立石の丸山に移転する。

(神美村誌、豊岡市昭和51年5月「立石地域の用地概況」より)



日扇寺